

19 [星]

“君はどの惑星にいるのか”

日本語の「惑星」は「惑(まどう)星(ほし)」から。「惑星」を意味する英語のplanetも「さまよう人」というギリシャ語から。つまり日本語の「惑星」も英語のplanetも、惑星が恒星と異なる動きをして、夜空の中をふらふらとさまよっているように見えることに由来する(さまよっているよう見えるのは惑星が恒星よりもずっと地球の近くで公転しているため)。太陽系のplanet「惑星」はMercury「水星」・Venus「金星」・Earth「地球」・Mars「火星」・Jupiter「木星」・Saturn「土星」・Uranus「天王星」・Neptune「海王星」の8つ(以前はPluto「冥王星」も含まれていた)。「君の考え方は現実離れしている」という意味で次のように言うこともある。

What planet are you on? 〈君はどの惑星にいるのか〉

You are on another planet. 〈君は他の惑星にいる〉

mercurial：気まぐれな

Mercury「水星」はローマの商業神Mercuriusに由来する。商業神を原義とするだけに、Mercuryには「忙しく動きまわる」や「すぐに変わる」というイメージがあると言われる。例えば普通名詞のmercuryでは流動する金属「水銀」の意味にもなる。またMercuryの形容詞mercurial〈水星のような〉は「移り気な」「気まぐれな」「活発な」などの意味で使われる。

He is so **mercurial** and nobody can expect what he will do next.

〈彼はとても水星のようで、次に何をするか予測できない〉
「彼はとても気まぐれで、次に何をするのか予測できない」

saturnine：むっつりした

Saturn「土星」はローマの農耕神Saturnusに由来する。Saturnには「暗い」や「陰鬱な」というイメージがあると言われる。例えばSaturnの派生語saturnineが「まじめくさった」「つきあいにくい」「むっつりした」という意味で使われることもある(古くはSaturnを「鉛」の意味で使うこともあった)。このような意味は土星のもとで生まれた人は陰気な性格を持つという古い占星術の影響からとも言われる。

My roommate is a **saturnine** man who rarely smiles.
〈私のルーム・メートはめったに笑わない土星のような男だ〉

「私のルーム・メートはめったに笑わないむっつりした男だ」

lunatic：狂人

Lunaはローマ神話に出てくる月の女神。このLunaから派生した語がlunar「月の」やlunatic「狂人」。このlunaticの意味は、月の満ち欠けが人の精神に影響を与えて狂わせると信じられていたことから。「(恋をして) 正気でなくなっている」という意味でmoonstruck〈月に打たれた〉を使うこともある。

He is a **lunatic** who believes himself to be God.
「彼は自分が神だと信じている狂人だ」

I was **moonstruck** by her in those days.
〈その当時私は彼女によって、月に打たれた状態だった〉
「その当時彼女のせいで(彼女に恋をして) 私は少し頭がおかしくなっていた」